

第23回 板橋区医師会医学学会

プログラム・演題抄録集



公益社団法人
板橋区医師会

第 23 回医学会巻頭言

板橋区医師会医学会 会長 水野 重樹

本年も恒例となりました板橋区医師会医学会を下記の日程で開催します。1日目は、地域医療介護の連携を図り、医療、看護、介護、福祉等で活躍している方の相互の情報交換の場として開催します。2日目の区民公開講座は、区民啓発を目的に開催します。今年は、12月15日（土）と16日（日）に板橋区立文化会館で開催します。

1日目には348医療機関の板橋区医師会員、医療関係者、介護関係者を対象に、医療・介護に関する一般演題と要望演題1「急性期から在宅までの医療・介護の連携」と要望演題2「難病に対する医療と介護」計96題の演題発表と第5回公益社団法人板橋区医師会若手医師奨励賞授賞式・受賞者発表を行います。その後、教育講演を「オンライン診療の現状と課題 ～在宅診療における活用」と題して、日本医師会副会長 今村聡先生にご講演いただきます。昨今のわが国の経済事情の変化や超高齢社会の影響もあり、皆保険制度も変化していることはご存知のことと思います。その中で、診療報酬改定の中核に位置する中医協（中央社会保険医療協議会）の委員でもある先生からのご講演は、機知に富む素晴らしいものと思います。参加をお待ちしております。

2日目は区民公開講座です。昨年に続き、午前中は映画「いしゃ先生」を上映いたしますが、その前に東京都相互理解のための対話促進事業として、「緊急時の対応について（暮らしの中の医療情報ナビより）救急車の呼び方 困った時は#7119」を東京都医師会救急委員会委員 安田病院院長 安田武史先生にお話しいただきます。区民の皆様にとって、有意義な講話であると思います。映画の内容は、少し昔の地方の女医先生の姿を描いた物語で、楽しんでいただけたと思います。

午後のプログラムは、特別講演とシンポジウムです。健康を維持するための効果として、「笑い与健康 心と身体を癒す笑いの効果」の講演を福島県立医科大学医学部疫学講座主任教授 大平哲也先生にさせていただきます。生活習慣病や認知症に対する笑いによる予防効果やメカニズムについてお話ししていただけます。

シンポジウムは『「終活」医療の現場から アドバンス・ケア・プランニングとは』と題して、3人のシンポジストにお話しいただきます。超高齢社会になり、亡くなる高齢者が多くなり、多死社会を迎えております。このような社会となり、最後まで良い人生をすごすために、日頃から大切にしていることや、自身が望む医療やケアについて考え、信頼できる人たちと話し合うことも大切なことだと提案されています。今回のシンポジウムの中でも「アドバンス・ケア・プランニング」という言葉が出てきますが、この言葉と一緒に健康・病気・寿命について、この公開講座を機会に皆様に考えていただければ幸いです。

本医学会を通して、板橋区医師会に対する皆様のご理解・ご支援を引き続きお願いしまして、ご挨拶とさせていただきます。

第5回公益社団法人板橋区医師会 若手医師奨励賞について

板橋区医師会では、板橋区内の医療を担う若手医師の育成を目的に、「公益社団法人板橋区医師会若手医師奨励賞」を平成26年度に設立しました。この賞は、日常診療への示唆に富む臨床症例の経験、臨床・社会医学研究を通じて、実践的で創造的な活動を行っている、満40歳未満（平成30年9月15日現在）の板橋区内に常時勤務している若手医師やそのグループを対象にしております。

昨年度は、優秀賞2名の先生方を選考させて頂きました。

今年度も第23回板橋区医師会医学会において、書類選考により選ばれた奨励賞対象の先生方数名に口頭で発表を頂き、併せて授賞式を執り行わせて頂きます。是非、多くの会員の先生方、並びにご関係の方々には、ご参加頂きますようお願い申し上げます。

第5回公益社団法人板橋区医師会 若手医師奨励賞 授賞式 および 受賞研究発表

日時：平成30年12月15日（土） 午後4時30分より
場所：板橋区立文化会館 小ホール

板橋区医師会医学会開催一覧（平成 8 年～平成 29 年）

回数	開催日	プログラム
第 1 回	1996 年（平成 8 年） 6/22・23	特別講演 シンポジウム がん診療の現状－終末期医療についても－ 21 世紀に向けた地域医療について－現状と将来について－
第 2 回	1997 年（平成 9 年） 7/26・27	特別講演 シンポジウム 高齢化社会における医療・保健・福祉の目標と評価 板橋区における大災害時の医療対策 板橋区における在宅医療の構築
第 3 回	1998 年（平成 10 年） 8/29・30	シンポジウム 幼児学童期の精神面の諸問題と現場での対応 介護保険と医療・福祉の連携
第 4 回	1999 年（平成 11 年） 7/10・11	特別講演 シンポジウム 医療制度改革案について（特に参照価格制度について） 幼児学童期の感染症 板橋区における介護保険の準備（本音で語る介護保険）
第 5 回	2000 年（平成 12 年） 8/26・27	特別講演 シンポジウム 胃癌診断・治療の進歩 小児救急 介護保険の現状と問題点
第 6 回	2001 年（平成 13 年） 7/14・15	特別講演 シンポジウム 医療と情報 小児の生活習慣病 成人における生活習慣病を考える
第 7 回	2002 年（平成 14 年） 9/28・29	特別講演 シンポジウム お医者さんのかかり方が変わる？ 小児のアレルギー－アレルギーを知りましょう－ 病院のかかり方－かかりつけ医をもちましょう－
第 8 回	2003 年（平成 15 年） 9/27・28	特別講演 シンポジウム 新型ウイルス性肺炎 SARS（重症急性呼吸器症候群） 板橋区健康づくり 21 計画－健康でいきいきとした暮らしをめざして－ 身近な感染症の予防－あなたももう一度見直しませんか－
第 9 回	2004 年（平成 16 年） 9/25・26	特別講演 シンポジウム 地域で痴呆を支える：かかりつけ医の役割 こころの生涯健康を考える 『たばこ』健康づくり・まちづくりの視点から－健康づくり応援型のまちの実現をめざして－
第 10 回	2005 年（平成 17 年） 9/24・25	特別講演 シンポジウム 若年者の性行動に向き合って 健やかな老後をめざして－介護予防と疾病予防－ これからの板橋の認知症ケアを考える AED 講習会
第 11 回	2006 年（平成 18 年） 9/23・24	教育講演 健診を評価する：その意義と方法 特別講演 シンポジウム 健康づくりの食べ方と玄米ニギニギダンベル体操 板橋区の子育て支援 板橋区における脳卒中対策について AED 講習会
第 12 回	2007 年（平成 19 年） 9/8・9	教育講演 特定健診・特定保健指導－地域における新たな生活習慣病予防システムの構築－ 特別講演 シンポジウム メタボリックシンドロームを撲滅するために 気になる感染症－一体、いま何が問題なの!?－ いざ、病気になったら－効率的な医療機関へのかかり方－ AED 講習会
第 13 回	2008 年（平成 20 年） 9/6・7	教育講演 医療関連死と監察医制度 要望演題 健診・検診 終末期医療とケア 特別講演 シンポジウム 豊かな生、豊かな死のために 子どもの心のケアについて 実戦！メタボリックシンドローム撲滅 AED 講習会
第 14 回	2009 年（平成 21 年） 9/26・27	教育講演 医療と政治－医政活動の原点を考える 指定演題 糖尿病の介護と保健について 穏やかな最期を迎えるための医療と介護 特別講演 シンポジウム 糖尿病の早期治療の意義は？／特定健診・一般健診を活かそう 考えよう日本のあした－見直そう子どもの生活習慣－ 早く見つけよう！－がんなんて怖くない－ AED 講習会

回数	開催日	プログラム
第 15 回	2010 年(平成 22 年) 9/25・26	教育講演 超高齢社会における医療介護の展望 指定演題 退院前カンファレンス ～入院から在宅まで、切れ目のない連携～ 施設間連携 二人の主治医（共同診療） 特別講演 自分らしい死をどう迎えるか シンポジウム 次世代を担う子どもの健康を守るために 在宅でも安心！医療と介護
第 16 回	2011 年(平成 23 年) 9/24・25	教育講演 いくつかの重大事故が起こる ～平穏無事は危険信号～ 要望演題 小児在宅医療 退院を含めた在宅療養支援 特集 災害医療支援（東日本大震災を中心として） 特別講演 ロコモと介護予防 ～寝たきりを防止するために～ シンポジウム 認知症！地域で支えよう 子育てアドバイス
第 17 回	2012 年(平成 24 年) 9/29・30	教育講演 東京都医療連携手帳の普及に向けて ～がん診療に求められる医療連携～ 要望演題 胃ろう（経管栄養法）を考える 医療・介護現場における患者対応 特別講演 いのちを商品にした国アメリカ ～日本の宝を守るには～ シンポジウム 「災害と医療」 午前の部「災害時の医療ネットワーク」 午後の部「東日本大震災に学ぶ災害時の医療」
第 18 回	2013 年(平成 25 年) 12/7・8	教育講演 最近の医療訴訟の傾向と対策 ～診療所の法的リスクマネジメント～ 要望演題 地域における多職種連携 糖尿病に関わる複数科連携 『宇宙医学の社会への還元』 特別講演 宇宙と健康 ～安全な暮らしを支える宇宙開発～ トークセッション 有人宇宙飛行 黎明期に活動した二人の医師と宇宙飛行士が語る シンポジウム 宇宙医学と健康長寿
第 19 回	2014 年(平成 26 年) 9/13・14	教育講演 新型骨粗鬆症の恐怖～生活習慣病は要注意～ 要望演題 小児医療に関する最近の話題 特別講演 人生の最期を穏やかに過ごすために シンポジウム 今日からできる認知症の予防 映画 「最高の人生の見つけ方」
第 20 回	2015 年(平成 27 年) 9/12・13	教育講演 専門医としての総合診療医～専門医制度とかかりつけ医の役割～ 要望演題 難病・がん患者に対する新たな治療・療養の支援 特別講演 和食と健康 シンポジウム 脳卒中の予防と治療 映画 「エンディングノート」
第 21 回	2016 年(平成 28 年) 9/10・11	教育講演 診療関連死と監察医制度 要望演題 癌の予防・早期発見・治療・リハビリ・終末期 シンポジウム 認知症を地域が支える、みんなで支える 基調講演 認知症とともに生きる社会に向けて 対談講演 認知症とともに、よりよく生きる 活動紹介 映画 「ベコロスの母に会いに行く」
第 22 回	2017 年(平成 29 年) 9/2・3	要望演題 認知症の現状と課題～診断・対策・ケア～ 教育講演 認知症高齢者をめぐる諸問題 特別講演 健康長寿の秘訣：最近の考え方 シンポジウム 元気な高齢者を目指して！フレイルって何ですか？ 映画 「徘徊 ママリン 87 歳の夏」

演題発表について

○口演発表の方へ

1. 発表時間は、口演発表5分、質疑討論3分の合計8分です
※発表時間厳守をお願いします。進行につきましては、座長より指示がございます
2. PCは原則、学会が用意したものを使用してください
3. 発表されるセッションの約30分前には2階小ホール前の総合受付へお越しください
4. PCを使用される場合は試写をいたしますので、2階小ホール前の総合受付後、「PC受付」にお立ち寄りください
5. スライド枚数制限はございませんが、口演時間内で無理のないようご注意ください
6. 発表時間10分前までには、発表会場内最前列左手の席にてお待ちください
7. スクリーン1面映写となっております

○PCを使用される方へ

ご発表に際してはUSBフラッシュメモリ、CD-R、またはPC本体（Windows、Macintosh）をお持ち込みください

- ◆ USBメモリまたは、CD-R持ち込みの場合（Windowsご使用で、ご発表内容に動画がない方）
 - ・本学会が準備する環境はWindows、PowerPoint 2003/2007/2010/2013/2016です
 - ・フォントは、文字化けやズレを防ぐためにOS標準のものをご使用ください
推奨フォント 日本語：MS明朝、MSゴシック 英語：Century.
- ◆ PC持ち込みの場合（Macintoshご使用の方または、ご発表内容に動画がある方）
 - ・本学会が準備するプロジェクタケーブルの端子は「ミニD-Sub15ピン」です
これに対応するPCをご持参ください
一部小型PC、Macintoshなど変換コネクタが必要な場合は必ずご持参ください
 - ・スクリーンセーバー、省電力設定、個人認証などの機能はあらかじめ解除しておいてください
 - ・発表中または準備中にバッテリー切れとなる恐れがありますので、電源コードは忘れずにご用意ください
 - ・動画は事前に再生できるかご確認ください
発表動画データを作成されたPCとお持ち込み頂くPCが別の場合はご注意願います
 - ・スムーズな進行をするために、Power Point 付属機能の「発表者ツール」の使用はお控えください

発表時のPC操作について

- ・演台上にモニター、操作ボタンがセットされております。スライドの操作は演者ご自身にて行ってください。PC本体持込みの場合も同様です

※注意事項

- 当日、会場ではデータ修正はできません
- 念のため、バックアップデータを必ずお持ちください
- 作成したデータは、作成にご使用したPC以外でのPCで必ず動作をご確認ください

○演題発表座長の方へ

担当セッション開始 30 分前までに 2 階小ホール前の総合受付にて受付をすませ、10 分前には発表会場内最前列右手の席にてお待ちください

○ポスターセッションの方へ

1. ポスターは 2 階小ホール前のスペースに掲示いたします
2. 13:00 までに 2 階小ホール前の総合受付にて受付をすませ、ご自身で掲示をお願いします
貼付に必要な画鋏・テープは事務局で用意いたします
3. ポスターは右図の要領で作成してください
サイズ 横 90cm × 縦 150cm
(PowerPoint60cm × 100cm で作成いただき、1.5 倍で出力)
演題番号・演題名・演者氏名・所属・共同演者もデータ内に記載をお願いします
4. ポスターは掲示のみで、発表はございません
5. ポスター掲示は 13:30 ~ 17:15 までとなっております
ご自身で持ち帰る場合は 17:15 ~ 17:30 の間に撤去をお願いいたします
時間が過ぎましたら事務局で撤去処分いたします



【取得可能な単位等】 医学会に参加することにより以下の単位が取得できます

12/15 (土)

■教育講演 (第 1 会場 17:00 ~ 18:00)	●日本医師会生涯教育 1 単位 カリキュラムコード 4,7 (各 0.5 単位)
------------------------------	---

お問い合わせ先：公益社団法人 板橋区医師会

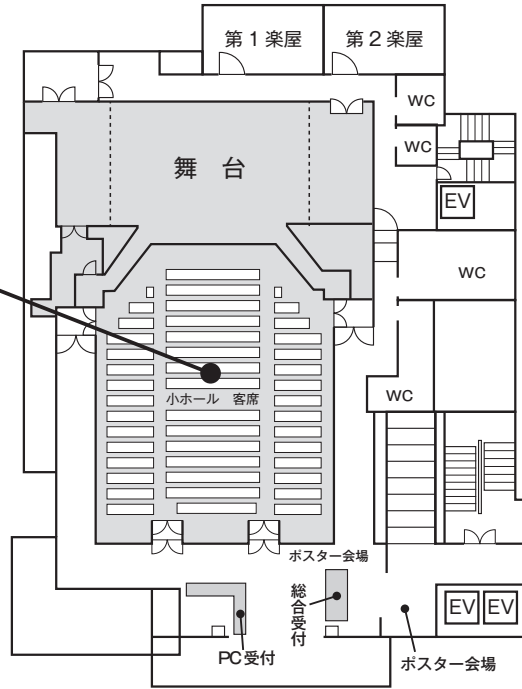
〒173-0012 板橋区大和町 1-7

igakukai@itabashi.tokyo.med.or.jp TEL. 03-3962-1301 FAX. 03-3964-3652

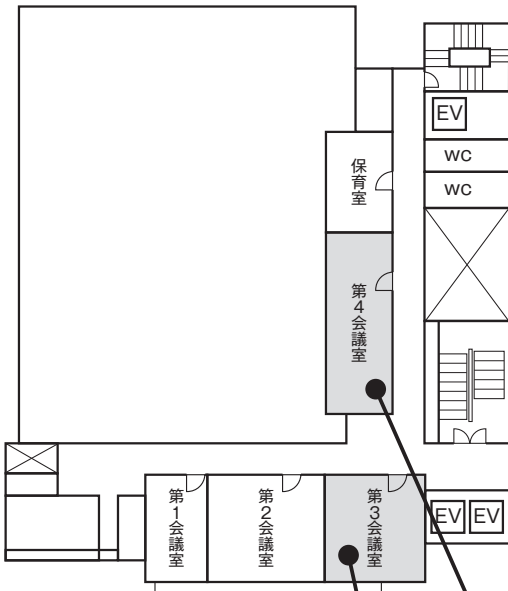
板橋区立文化会館

2F

第1会場 (小ホール)



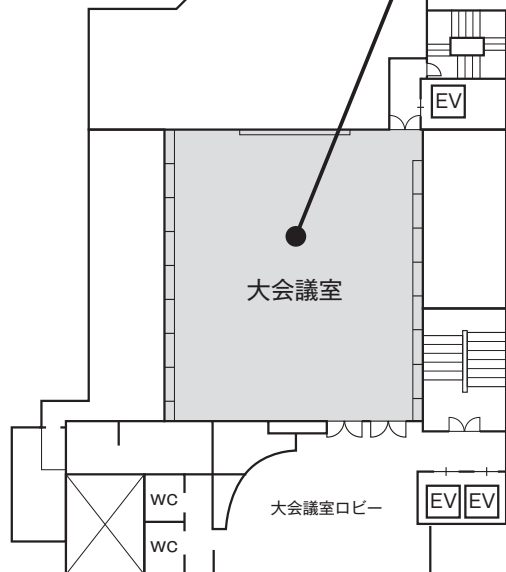
3F



第3会場 (第3会議室)

第4会場 (第4会議室)

第2会場 (大会議室)



4F

第23回板橋区医師会医学会日程表

12/15 (土)

	13	14	15	16	17	18	19
4F 大会議室 第2会場		13:30-16:30 一般演題 (看護)					18:05-19:30 懇親会
3F 第4会議室 第4会場		13:30-17:20 一般演題・一般演題 (看護)					
第3会議室 第3会場		13:30-16:20 一般演題					
2F 小ホール 第1会場		13:30-16:20 要望演題			16:30-17:00 若手医師 奨励賞	17:00-18:00 教育講演 「オンライン診療の 現状と課題」	
ロビー ポスター セッション		13:30-17:15					

12/16 (日)

	10	12	13	14	15	16
1F 大ホール 区民公開 講座	10:00-12:00 東京都相互理解のための 対話促進支援事業 映画 「いしや先生」			13:00-14:10 特別講演 「笑いと健康 心と身体を癒す 笑いの効果」		14:30-16:00 シンポジウム 「終活」医療の現場から アドバンス・ケア・ プランニングとは

プログラム

12月15日(土) (第1会場 2F 小ホール)

要望演題 1「急性期から在宅までの医療・介護の連携」

脳血管障害, 心疾患, 悪性腫瘍, 糖尿病, 大腿骨近位部骨折, CKD など, 急性期から在宅までの医療, 介護の連携が重要となっています。また, 連携を進めるためには, 各病院や施設の機能・治療内容などの相互理解が不可欠です。そこで, それぞれの経験した症例, 医療と介護, ケアの状況や問題点の発表を通して, より良い連携のあり方を考えます。

13:30 - 14:18

要望演題 1

座長: 佐藤 恵
(佐藤クリニック院長)

1-1

入院前から行う患者サポート～多職種で患者を支える～

藤井由加里 (東京都保健医療公社豊島病院 総合患者支援センター 患者サービス係)

1-2

自宅退院へ向けての自己効力感向上のための看護介入

包國智子 (東京都健康長寿医療センター 看護部)

1-3

公的制度が利用できない若いがんの方への在宅療養移行支援を経験して

塩原未知代 (板橋区医師会在宅医療センター 療養相談室)

1-4

大腸癌のため在宅中心静脈栄養が導入された後期高齢1型糖尿病患者の1症例

田久保正洋 (日本大学医学部附属板橋病院 糖尿病代謝内科)

1-5

外来化学療法室の取り組み

玉田由美 (東京都保健医療公社豊島病院 看護部)

1-6

急性期病院を経て回復期リハビリテーション病院に入院した脳血管障害患者における退院時介護サービス導入に影響を及ぼす要因について

～回復期データベースによる調査～

大沼 剛 (板橋リハビリ訪問看護ステーション)

14:18 - 14:58

要望演題 1

座長: 齋藤英治
(板橋区医師会副会長/齋藤医院院長)

1-7

脳卒中地域連携クリニカルパスを適用した患者の再入院にいたる原因の検討

高梨成彦 (東京都健康長寿医療センター 脳神経外科)

1-8

透析後に発症した脳梗塞患者に対して急性期包括的リハビリテーションが奏功した1例

菊山崇浩 (帝京大学医学部 内科学講座)

1-9

脳梗塞再発により膝屈筋痙縮増強した陳旧性脳出血右片麻痺患者に対しボツリヌス治療を行い、急性期病院から直接在宅復帰を調整した1例
中島英樹（東京都保健医療公社豊島病院 リハビリテーション科）

1-10

重症心不全及び末期心不全への在宅医療への橋渡し
～急性期病院からの医療連携～
青山里恵（東京都健康長寿医療センター 循環器内科）

1-11

こども救命受け入れにおける病院内外連携
藤澤惇平（日本大学医学部 小児科学系小児科学分野）

14:58 - 15:38

要望演題 1

座長：鈴木陽一

（板橋区医師会理事／板橋区役所前診療所）

1-12

急性期・回復期・生活期のシームレスな連携を目指して
～地域包括ケアにおける「医療と介護の連携」についての考察～
宮本博司（帝京大学医学部附属病院 医療福祉相談室）

1-13

地域密着型救急病院における急性期治療から在宅診療の実態
松村睦美（安田病院 在宅診療チーム）

1-14

アンケート調査から見たケアマネジャーの訪問リハビリテーションへの要望
阿部 勉（板橋リハビリ訪問看護ステーション）

1-15

行政書士の視点を通じた地域ケアマネとのネットワーク構築についての考察
村尾和俊（慈誠会前野病院）

1-16

急性期病院から在宅まで、継続的に行われる歯科訪問診療
澁谷英介（板橋区歯科医師会／渋谷歯科医院）

要望演題 2「難病に対する医療と介護」

難病では、発症から診断、治療、介護までそれぞれのステージにおける医療・介護連携が必要です。このセッションでは、小児を含めそれぞれの難病疾患につき医療、看護、介護をはじめ各種の取り組みを報告いただきます。

15:38 - 16:18

要望演題 2

座長：吉野正俊

（板橋区医師会理事／吉野内科クリニック院長）

1-17

在宅神経難病患者に対する歯科訪問診療
澁谷英介（板橋区歯科医師会／渋谷歯科医院）

1-18

東京都在宅難病患者訪問診療事業の概要と医療相談員の役割について
榎本浩典（板橋区医師会在宅医療センター 療養相談室）

1-19 保険薬局における難病患者処方箋応需の問題点
村松正啓（かえで薬局）

1-20 インターネットを用いた肝・胆道難病に対する医療情報周知の取り組み
八木みなみ（帝京大学医学部附属病院 消化器内科）

1-21 神経因性膀胱による反復性下部尿路感染症に対し、在宅での間欠的自己導尿と膀胱洗浄が奏功した Tay-Sachs 病の男児例
治山芽生（帝京大学医学部附属病院 小児科）

16:30 – 17:00

第 5 回公益社団法人板橋区医師会 若手医師奨励賞授賞式 および 受賞研究発表

17:00 – 18:00

教育講演

座長：水野重樹
（板橋区医師会長）

オンライン診療の現状と課題 ～在宅診療における活用

今村 聡（日本医師会副会長）

※日医生涯教育単位 1 単位 カリキュラムコード 4：医師－患者関係とコミュニケーション
7：医療の質と安全

12月15日（土）（第2会場 4F 大会議室）

13:30 – 14:26

一般演題 1（看護）

座長：柴田 薫

（東京都健康長寿医療センター看護部 副看護部長）

2-1 診療所における安全対策の取り組み
五十嵐由美（石川医院）

2-2 「持ち込み物品基準」を活用し危険物持ち込みを未然に防ぐオリエンテーション
岸本寛美（日本大学医学部附属板橋病院 看護部 8B 病棟）

2-3 自閉症を伴った生活習慣病症例の経験
川上麻恵（板橋区医師会病院 看護部 N4 病棟）

2-4 喘息の急性増悪の状態（発作）を繰り返した乳児とその家族への支援の 1 症例
青木絵美（ときわ台はしもと小児科アレルギー科）

2-5 不安を抱える慢性閉塞性肺疾患罹患患者に対して自己効力感を高める関わり
松館駿斗（板橋区医師会病院 看護部 N5 病棟）

2-6 認知症を有する患者への声かけ、赤ちゃん人形療法を実践して学んだこと
横山恵利華（東京都保健医療公社豊島病院 看護部）

2-7 身寄りのない独居の高齢肺癌患者の不安に対するアプローチ
山崎綾佳（東京都健康長寿医療センター 看護部）

14:26 - 15:30

一般演題 2 (看護)

座長：伊東美和子

(板橋区医師会病院看護部手術室・中央材料室 師長代理)

2-8

帝王切開で出生した児の NICU 入室時の体温管理に関する検討

細井広江 (日本大学医学部附属板橋病院 NICU)

2-9

緊急帝王切開になった産婦の出産体験の受容を支援する看護

塚原未菜 (板橋区医師会病院 看護部 N4 病棟)

2-10

介達牽引を行った骨折患児との関わりで学んだこと

～皮膚トラブルを予防する方法～

井坂美輝 (東京都保健医療公社豊島病院 看護部)

2-11

皮下注射による骨粗鬆症治療剤を導入する患者が継続できる自己注射をめざして

渡邊紀子 (板橋区医師会病院 看護部 S3 病棟)

2-12

体外式補助人工心臓装着患者の不安に対する効果的な看護介入

～ペプロウ人間関係看護論に沿って～

清水あやめ (東京都健康長寿医療センター 看護部)

2-13

術後化学療法を行っている患者の QOL に関する考察

関 謙悟 (東京都健康長寿医療センター 看護部)

2-14

正確な記録記入への取り組み

～記録訂正を減らし、個別的な看護計画・実践をするために～

南出涼子 (日本大学医学部附属板橋病院 看護部)

2-15

知識確認テストを用いた記憶の定着率の比較

～効果的な教育方法の検討に向けて～

星野裕一 (日本大学医学部附属板橋病院 看護部救命救急センター)

15:30 - 16:26

一般演題 3 (看護)

座長：蓮尾五美

(日本大学医学部附属板橋病院 看護部 管理師長)

2-16

点滴のダブルチェックの確認不足となる要因と対策

野崎友華梨 (日本大学医学部附属板橋病院 看護部 6A 病棟)

2-17

術中の器械カウントを短時間で確実にを行うためのカウント用紙の検討

～3回の改訂を行ったことによる成果～

菊谷 恵 (板橋区医師会病院 看護部手術室)

2-18

ワークライフバランスを考える～チームで協働するために～

佐藤伸夫 (日本大学医学部附属板橋病院 看護部中央手術室)

2-19

術後早期離床ケア～臨床経験年数の差異が与える患者の思いの変化～

三田 楓 (東京都健康長寿医療センター 看護部)

2-20

再転倒の恐怖心により、離床に積極的になれなかった患者との関わり

吉沢百恵 (板橋区医師会病院 看護部 S3 病棟)

2-21

高齢患者の消化器外科術後せん妄予防，改善に向けた介入の効果
～ニーチャム混乱－錯乱スケールを用いて～
藤沼加純（東京都健康長寿医療センター 看護部）

2-22

BPSD 症状が出現している患者に対するユマニチュードの手法の実践を試みて
齊藤亜妃（板橋区医師会病院 看護部 N5 病棟）

18:05 – 19:30

懇親会

12月15日（土）（第3会場 3F 第3会議室）

13:30 – 14:18

一般演題 4

座長：藤田雅巳

（板橋区内科医会会長／藤田医院院長）

3-1

豊島病院放射線科における新人教育マニュアルの作成
飯塚 淳（東京都保健医療公社豊島病院 放射線科）

3-2

周術期における吸入手技は薬剤師の介入により改善される
花田美里（帝京大学医学部附属病院 薬剤部）

3-3

医療安全からみた病理未読解消にむけた対策
斉藤光次（帝京大学医学部附属病院 病理診断科）

3-4

2型糖尿病に対する SGLT2 阻害薬の効果と副作用に関する臨床研究
野村和至（野村医院）

3-5

近隣病院から紹介され B-RTO が成功した十二指腸静脈瘤の 2 例
田村 祐（日本大学医学部附属板橋病院 消化器肝臓内科）

3-6

呼吸器疾患スクリーニング検診班の活動について
大森千春（板橋区医師会 呼吸器疾患スクリーニング検診班）

14:18 – 14:58

一般演題 5

座長：安田武史

（安田病院院長）

3-7

けいれん発症の脳梅毒腫の 1 例
山本崇裕（東京都保健医療公社豊島病院 脳神経外科）

3-8

高齢者三叉神経痛例に対する微小血管減圧術の有用性
小野田恵介（帝京大学医学部附属病院 脳神経外科）

3-9

下肢麻痺により発見された肺腺癌の 1 例
落合亮介（帝京大学医学部医学科大学院 内科学講座臨床腫瘍学 大学院 1 年）

3-10 胆管嚢腫空腸吻合術後長期経過後に胆道出血・胆管内発癌をきたした1例
峯崎俊亮（帝京大学医学部 外科学講座）

3-11 腹腔鏡下に切除し得た長径8.5cm大の低異型度虫垂粘液性腫瘍の1例
下山雄也（安田病院 外科）

14:58 - 15:54

一般演題 6

座長：大久保公恵
（板橋区医師会病院 内科部長）

3-12 大動脈一尖弁で外科的治療を要した1症例
弓倉哲郎（日本大学医学部附属板橋病院 循環器内科）

3-13 機能的僧帽弁閉鎖不全症による慢性心不全に対し、
経皮的僧帽弁接合不全修復術が著効した1例
中島 真（帝京大学医学部附属病院 循環器内科）

3-14 実地医家におけるリアルワールドの冠攣縮性狭心症
大野安実（おおの内科クリニック）

3-15 Robot 症例の報告
尾澤直美（帝京大学医学部附属病院 心臓血管外科）

3-16 大動脈支援病院として救命できた心タンポナーデ合併の偽腔閉塞型
StanfordA 急性大動脈解離の1例
村田知洋（東京都健康長寿医療センター 心臓外科）

3-17 下肢腫脹がきっかけで判明した多発動脈瘤 術式と合併症
北住善樹（日本大学医学部附属板橋病院 心臓血管外科）

3-18 当院における心房細動患者に関する検討
亀山真理（安田病院 臨床検査科）

15:54 - 16:18

一般演題 7

座長：大野安実
（板橋区医師会理事／おおの内科クリニック院長）

3-19 三角線維軟骨複合体 (triangular fibrocartilage complex; TFCC) 損傷
山本 清（板橋区柔道整復師会）

3-20 「はすのみ教室」で行う「腰痛・膝痛転倒予防コース」の効果について
～痛みと自己効力感の評価～
楨田 晃（板橋区柔道整復師会）

3-21 徒手整復と金属副子外固定により治癒に至った前腕両骨骨折の症例
藤村淳一（板橋区柔道整復師会）

12月15日(土) (第4会場 3F 第4会議室)

13:30 - 14:26

一般演題 8

座長：石川正治

(板橋区医師会理事／いしかわ耳鼻咽喉科クリニック院長)

4-1

総合患者支援センターにおける栄養科の取り組み
～入院1食目からの安全で適切な食事提供を目指して～
小笠原三保子 (東京都保健医療公社豊島病院 栄養科)

4-2

災害時の「食べる」を支える(第2報)～院内職員の応援を含めた体制整備～
永井右来子 (東京都保健医療公社豊島病院 栄養科)

4-3

板橋区介護予防事業「口腔機能向上プログラム」の実施状況について
土屋京子 (板橋区歯科医師会)

4-4

歯科におけるセカンドオピニオンの現状と傾向
～当院における過去5年間のセカンドオピニオンから見えてきたものとは?～
古市靖夫 (板橋区歯科医師会 古市歯科医院)

4-5

口腔出血を契機に特発性血小板減少性紫斑病を認めた1例
斉藤美香 (東京都健康長寿医療センター 歯科口腔外科)

4-6

顎口腔領域が初発症状であった急性骨髄性白血病の2症例
森 美菜 (東京都保健医療公社豊島病院 歯科口腔外科)

4-7

造血幹細胞移植後の慢性GVHD患者に発生した疣贅癌の1例
小田哲也 (東京都健康長寿医療センター 歯科口腔外科)

14:26 - 15:14

一般演題 9

座長：林 敬一

(板橋区医師会理事／蓮根メディカルクリニック院長)

4-8

適切な病診連携により切迫骨折の段階で手術を行い、
歩行能力を維持できた大腿骨骨転移の1例
藤沼 渉 (帝京大学医学部 整形外科科学講座)

4-9

日常生活機能が自立した大腿骨転子部骨折患者の2割は術後1年経過しても
歩行器歩行以下である：過去起点コホート研究
乾 貴博 (帝京大学医学部 整形外科科学講座)

4-10

在宅診療での骨脆弱性骨折と骨粗鬆症の治療
中小路 拓 (中小路整形リハビリクリニック)

4-11

慢性関節リュウマチの診断に困難を極めた
木村英植 (木村整形外科)

4-12

板橋区の保険診療におけるリハビリテーションの実状
小山照幸 (東京都健康長寿医療センター リハビリテーション科)

4-13 当院における廃用防止ラウンドの取組み
 工藤卓人（東京島健康長寿医療センター リハビリテーション科）

15:14 - 15:46
 一般演題 10

座長：宮倉 崇
 （板橋皮膚科クリニック）

4-14 穿通枝結紮術にて治癒したうっ滞性皮膚潰瘍の一例
 深谷早希（帝京大学医学部附属病院 皮膚科）

4-15 日本大学皮膚科で経験した慢性特発性蕁麻疹患者に対するオマリズマブ使用
 例の臨床的検討
 伊東真奈（日本大学医学部 皮膚科学系皮膚科学分野）

4-16 天ぷら粉に混入したダニを原因とするアナフィラキシーの家族発症例
 立澤直子（帝京大学医学部 救急医学講座）

4-17 もやしアレルギーの1例
 後藤洋一（後藤こどもクリニック）

15:46 - 16:26
 一般演題 11

座長：宮川美知子
 （石川医院院長）

4-18 過去5年間の川崎病についての臨床的検討
 峯 佑介（板橋区医師会病院 小児科）

4-19 水痘罹患時に重症蜂窩織炎を発症した水痘ワクチン未接種の女児例
 手島名帆子（東京都保健医療公社豊島病院 小児科）

4-20 水痘の経過中にPRESを発症した1男児例
 齊藤寛貴（東京都保健医療公社豊島病院 小児科）

4-21 10歳代発症のクローン病3例から得られた教訓
 依藤 壽（よりふじ医院）

4-22 当院における二人目不妊の現状について
 藤野 剛（ときわ台レディースクリニック）

16:26 - 17:14
 一般演題 12（看護）

座長：梅本健三
 （東京都保健医療公社豊島病院看護部 看護師長）

4-23 転倒の発生要因の検証～自部署の事例を振り返って～
 内田 茜（日本大学医学部附属板橋病院 看護部）

4-24 立ち会い分娩における夫の援助と産婦の満足度との関連
 ～分娩時に必要な夫への援助内容とは何か～
 平井成美（板橋区医師会病院 看護部 N4 病棟）

- 4-25 **肺がん治療中の患者心理**
加藤綾佳（東京都健康長寿医療センター 看護部）
- 4-26 **死亡時に身寄りのない患者の社会的特性に関する一考察
～死亡届出人が院長となった事案から見えてきたもの～**
鈴木謙一（東京都保健医療公社豊島病院 総合患者支援センター 医療相談係）
- 4-27 **転移性骨腫瘍の終末期癌患者に対する QOL を考慮した食事援助**
繁田 招（板橋区医師会病院 看護部 N5 病棟）
- 4-28 **ストレングス志向を取り入れた退院指導について**
保坂育美（東京都健康長寿医療センター 看護部）

ポスターセッション（2F 小ホールロビー）

13:30 - 17:15

- ポスター 1 **平成 29 年度板橋区学校検尿結果について**
鈴木育夫（板橋区医師会 尿検診班）
- ポスター 2 **板橋区肝炎ウイルス検診結果報告（平成 29 年度）**
石川 徹（板橋区医師会 肝炎検診班／小豆沢病院 内科）
- ポスター 3 **板橋区における喉頭がん検診について**
河原秀明（板橋区耳鼻咽喉科医会）
- ポスター 4 **板橋区学童心臓検診（平成 28 ～ 30 年度）についての報告**
泉 裕之（板橋区医師会 循環器系検診班）

12月16日(日) 区民公開講座 共催:板橋区【会場:大ホール】

午前の部

10:00 - 12:00

■ 東京都相互理解のための対話促進支援事業

「暮らしの中の医療情報ナビより 緊急時の対応について～救急車の呼び方 迷ったときは#7119」
 東京都医師会救急委員会委員・安田病院院長 安田 武史

■ 映画：いしゃ先生（105分）

午後の部

13:00 - 16:00

■ 主催者挨拶

■ 特別講演：笑いと健康 心と身体を癒す笑いの効果

座長／板橋区医師会理事 大野 安実

講師／福島県立医科大学医学部疫学講座 主任教授 大平 哲也

■ シンポジウム：「終活」医療の現場から アドバンス・ケア・プランニングとは

座長／板橋区医師会副会長 石川 徹

佐藤クリニック院長 佐藤 恵

<シンポジスト>

帝京大学医学部内科学講座腫瘍内科准教授 渡邊 清高

板橋区医師会理事 鈴木 陽一

国際医療福祉大学医学教育統括センター教授 荻野美恵子

※区民公開講座は申込制となっています（定員 1,200 名）。

<申し込み方法>

板橋区医師会 Web サイト <https://www.itb.tokyo.med.or.jp/gakkai/kouza>
 区民公開講座参加申込みの入力フォームに必要事項をご入力の上お申し込みください。参加登録完了のメールを送信いたしますので、当日はその画面をお見せください。定員となり次第締切となります。

